

後輩たちへのエール！

一生付き合えるかけがえのない仲間を・・・

第36期3年2組有志

～prologue～

【たねよし】

私たちは1984年に関高校を卒業した3年2組の同窓生有志です。今年の誕生日で55歳を迎えます。

関高校卒業して30年以上経ちましたが定期的に同窓会を行い集まれば昔を懐かしみ、楽しい時間を過ごしています。

決して優秀な学生ではありませんでしたが、クラスの団結は強く楽しい学生生活でした。

しかし色んな意味で先生方を困らせ、心配させていました。掃除のほうきの半分以上を昼休みに体育館で連日実施したホームラン競争で壊し、学園祭では意味不明な夏祭りを教室で行うために校庭の砂利を何時間もかけて運び見事な神社を作り上げる屋を出店しました。

また不定期に行われる教室でのプロレスでは多くの群衆を集めました。

ホームルームでは先生方の経験をお聞きする企画で若い女性の先生をつまらない質問で泣かせて担任の先生にお前らは人間のクズだと叱られました。

色んな悪いことをしましたが大変楽しいクラスで勉強をしたという記憶はさほどありませんが、それぞれが進学し就職し色々な社会人として今はそれなりに皆がそれぞれの職場で重責を担い、また独立して社長業をしているものもいます。

今年は予想もしなかった新型コロナウイルス感染症に翻弄されて皆さんも不安で一杯かと思えます。人生には思いもよらない試練はあります。しかし起きてしまっている現状を恨んでも、嘆いても仕方ありません。皆さんはまずは元気で今出来ることをしっかりといただき、前向きに進んで下さい。また高校時代の友人は一生付き合える友人です。友情を大切に残りの高校時代をお過ごしください。

以下は同窓生有志個々からのメッセージです。少しでも皆さんの今後の参考になれば幸いです。



【渡邊】

私は、診療放射線技師として医療業界に入り、最初は患者の為に尽力すると意気がってました。でも、8年程経った頃に職場での様々な人間関係によるトラブルを感じ、医療従事者のモチベーションを維持することも患者のためだと思って、組織の充実や人材育成等を行う部署への異動を申し入れ技師の業務を離れました。それからは経営や労務管理などから学び、様々な人達とお会いして話を一杯しました。

私は元来、人と話をすることが大の苦手だったけど、業務を遂行するため、クラスメートをはじめ、色々な人達との交流で自然に克服できてました。

クラスメートには様々な業種がいて、会えば楽しい時間を過ごす一方で世間を学ぶ場所にもなっており、癒される仲間達であり教材です。

皆さんもそんな仲間をどうかゆっくり見つけてください。まだまだ人生はこれからですよ。



【トモジ】

私は製造業に勤める技術者です。最近、これまでの経験を活かして設計開発現場の目線で採用面接や育成プロセスの構築に携わっています。

みなさんには「すべての経験は人間力の肥やしです」と伝えたい。

特に失敗や挫折の経験を大切に。今の日本は平和で、たいがいの失敗で命を落とすことはありません。ましてや学生の多くは守ってくれる親がいることでしょう。そんな恵まれた環境で失敗できた自分を「運がよかった」と思っているとらえたら、後悔ではなく、反省ができて、次はもっとうまくできると思います。

もう一つ、「どんな人になりたい」とか、無理に将来の夢を設定する必要はないと思う。いろんなことに挑戦して、たくさん経験を積めば、なんとなく自分がやりたいこと、守るべきものがみえてくると思います。夢や目標はあくまでモチベーション維持や向上のツールととらえ、焦らず「良い加減」で生きるのも乙ですヨ。

最後に。不安や不満は人に聴いてもらうと8割は解消するらしいです。みなさんも、不安や不満を聴いてくれる仲間、家族を大切にしてくださいね。



【西田】

私は土木技術者を目指して社会へ踏み出しました。しかし、自分が思い描いていた仕事とはほど遠く、一年半余りで退職しました。辞める時は不安や葛藤もありましたが、このクラスだった面々にもいろいろ相談し、自分なりの結論を出す事ができました。

現在は地元の自動車関係の工場に働いています。全くの畑違いで最初は凶面すら読めない状態で、毎日が失敗の連続でしたが、周りの人達に支えられ何とかやってこれました。自分が携わった部品を搭載した車を見かけると嬉しくなります。

今、皆さんは不安を感じながら日々勉強に取り組まれている事と思います。夢や目標に向かって挑戦する気持ちは大切ですが、そのプレッシャーに潰されてしまっは元も子もありません。周りの雰囲気流されず自分のペースを大事に過ごして下さい。困った時は友達へ相談しましょう。何気ない会話の中に糸口があるかも知れません。一先輩として応援してます!!



【チャッティ】

私は自動車部品メーカーへ30年勤務し、パワートレイン工場の管理を担当しています。10年前には、家族6人で3年間の海外赴任も経験しました。中欧のポーランドで言葉が伝わらず、仕事と私生活で大変苦労しました。そんな中で自分一人の無力さと家族や同僚と協力し助け合う事の大切さを痛感しました。

新型コロナに世界中が不安で苦しんでいる今こそ、家族や友達と向き合う絶好のチャンスです。仲間と共に戦えば、大抵の苦難は乗り越えられます。先生も大人も正解が分からないこの問題の解決方法を、待つのではなく皆で探していきましょう!!



【けんじゅ】

私たち36期生は昭和40年41年、高度成長期に生まれ社会人になる頃にはバブルを経験し、その後の長い不況期を生き抜いてきました。関高校を卒業生する前後にテレビゲームが普及しだし、社会人になって数年後に携帯電話を手にしたいわゆる過渡期の世代です。多分在校生のみなさんのお父さん、お母さんも同年代だと思います。もしかしたらお父さん、お母さんも関高生という在校生の方もいるでしょう。おじいちゃん、おばあちゃんももしかしたら。

私たちの世代はアナログな時代からデジタルな時代を経験し、泥臭いことからドライなことまで苦労しながらやってきました。私たちの話を聞くのもいいでしょう。在校生のみなさんのお父さん、お母さんも同じだと思います。今は時間があるので一度じっくり話してみる、面白いあるいはつらかった経験談を聞いてみる、そこから何かしらのヒントがあるかもしれません。恥ずかしいかもしれませんが、お父さん、お母さんはそれを待ってるかもよ。



【貴久代】

卒業から早37年…あっという間でした。自分が55歳になろうとは（笑）

今でこそリケジョなんて素敵な言葉がありますが、私の時代は理数科女子は学年315人中たったの8名でした。

理数科女子は変わり者。なんて言われた時代でした。

現在私は獣医師として働いています。

たしかに3K（危険、汚い、臭い）の中、男性に混じって精進してきましたので、性格まで男らしく成長してしまいました（笑）

が、そんな私も子を持つ母です。若者には母親目線で発言してしまいます。いま、在校生のみなさんにかかる言葉があるとすれば、「肉体的にも精神的にも健康第一！そして出会いを大切にしてください。回り道をする事があっても、それはむしろあなたに必要な経験。行く先にはきっとあなたにふさわしい未来が待っています。」



【加野】

私は「土地家屋調査士」+「測量士」の資格を取得して、独立起業して横浜で会社を2つ経営しています。私達もこのような事態に遭遇した経験などありません。皆さんも不安だと思いますが、私も社員の生活を守る事や事業の継続の事を考えると不安いっぱいです。本当ならこの危機を乗り越えた上でアドバイスする事があればお話ししたい、そんな気持ちです。

自分は関高校を卒業し名古屋大学農学部に入り大学院も出たにもかかわらず、学部とは全く関係の無い会社に入り、勤めながら資格を取得し退職して、また初めて今の業界に入り5年の実務経験を積んで独立しました。資格取得したのも30歳で、それまでは全く違った事をしていたぐらいなので、高校時代の自分が将来こうなるなんて会社起業して経営するなんて想像もしてませんでした。

ですので、高校時代に将来どうなるかなんて決められない世の中もどんどん変わっていくので、アドバイスとすれば「どう転んでもいいように力をつけておく」つまり勉強もちゃんとやって友人ともいっぱい遊んだ方がいいかと思えます。

こんな時代に自分がコントロールできない事に気持ちを割いても無駄なので、できる事を考えて「なるようにしかならない」と楽しくポジティブに生きれば良いと思いますよ。



【藤井】

大学の応用化学科を卒業し、プラスチックメーカーの営業として千葉県で勤務しました。少し車で走れば海があり、また人との出合いや他の会社のことが色々わかって毎日が新鮮で楽しかったです。

30歳で地元に戻ってからは、近くの会社で働いています。主にISO9001の構築、維持、検査など品質保証の仕事をしてきました。

仕事や人間関係の悩みもありましたが、高校時代の友人と会えば、みんな大変だけどそれぞれの道で頑張っていることがわかり、元気になりました。今でも毎年会って同窓会の計画や高校時代の思い出話をしています。高校時代はたった3年間と短いですが、一生付き合っていく友人と過ごすことが出来ました。学校へも行けず自宅で過ごす日々、慣れないオンライン授業など大変厳しい環境ですが、心と身体を健康に保ち、友人たちと励ましあいながら頑張ってください。今は厳しい環境ですが、逆境に耐えたあなたたちに輝かしい未来があると信じています。



【まあ】

私は幼い頃からピアノを習っており、音楽が好きでした。そして、漠然と「音楽の先生になりたい」と思っていました。でも、高校に入学してからは、パズルのような数学や見えないモノを数式化する物理の面白さにふれ、理系もいいなという気持ちがふくらんでいきました。そのため、理系か文系にするか決める時、とても迷いました。「理系クラスにいて、大学は音楽科を受けます」と言っただけの先生を困らせたことも…。結局、理系クラスに進級し、大学では教員養成系の物理を専攻しました。でも、音楽から離れたわけではなく、ピアノを習ったり音楽科の授業を聴講したりしてました。すると欲が出てきて「もっと勉強したい」と思い始めました。そして、大学卒業後、1年間学費稼ぎのバイトと受験勉強をして、大学院で音楽を専攻しました。今は、小学校の教師をしています(一応音楽担当)。回り道をしたようですが、人との出会いも2倍、学んだことも2倍、人生2倍楽しんだように思います。高校生の皆さん、夢は諦めなければ叶う、努力すれば叶うのです。進路に悩むこともあるかもしれませんが、夢の実現めざして頑張ってください。



【大城戸】

私は大学で合成化学を専攻しました。学業よりもアメフトにのめり込んでいた中、さあ就活を始めるかという頃になった時、公務員だった兄からの進言を受け、全く畑違いの県職員(行政職)を「落ちて元々」と受験しました。この職種には本来経済学や法学を専攻した方が挑戦するのがほとんどですが、当時のパズルのおかげか否か、何故か受かってしまい、違和感のある組織にもすっかり馴染み現在に至ります。

何事にも楽観的な自分は、やりたい学問と就きたい仕事は必ずしもマッチしなくてもいいだろうと思いましたが、今の皆さんには簡単ではないかもしれませんが、時には大らかに将来を考えてもいいのかも知れませんね。歳を重ね何よりもの高校生活の財産は、ありきたりですがやはり今も気楽に付き合える同窓生のみみなです。



【大野】

私は岐阜大学病院で呼吸器内科医として働いています。今年3月から新型コロナウイルス感染が世界中に拡がり、社会のあり方、医療体制も大きく変わりました。病院では不足する防護資材、発熱患者さんの受け入れ、自身も感染に気をつけながら緊張の毎日診療にあたりました。全国的に患者数の増加、重症例の報告があり、恐怖を感じた方も多かったと思います。その中で、難しいですが、何が起きても冷静に対応出来る精神を養うことは重要だと思います。ただ、自身の高校時代を振り返ると多くの不安を抱えていたと思います。高校生活で、部活、友達関係は、幅広い人格形成に役立つと思います。困ったことがあれば、遠慮せずに先生や友人に相談するといいい結果に繋がることも多いと思います。また、皆さんと卒業後に社会に出てお会いできること楽しみにしています。



【きくこ】

私は看護師として働いたのちに教員をしています。この間は、心理学を学んだり、大学院に進学したりと転々としてきました。看護師をしている中で心のケアをしたいと思い、心理学に進学しましたが、心だけでなく、身体もみることが出来、心身の苦痛をケアできる看護に戻りました。

これまでの経験を通して思うことは、色々な人との出会いを大切にすることと、大変だなと思う仕事の後で色々なことに生きてくるということです。

人生色々と決断して前に進むことが求められます。しかし、このような状況では先がわからず不安になるとは思いますが、今出来ることに取り組みましょう。



【真喜子】

私は歯科医師です。主に通院困難な人に訪問診療しています。つまり患者さんは基礎疾患があったり高齢者だったりします。まさに感染リスクが高い人が対象で、今回は感染対策にかなり神経を使っています。でも人間慣れるもので、当初はノイローゼになりそうな気がしましたが、今はそれが当然として受け入れられるようになりました。そして、今まで見えていなかったものが見えるようになりました。



高校生の皆さんもきっとそうだと思います。何歳になっても人は変わるものだし、若いとそれが容易だと思います。若い皆さんはどんどん変化できる自分になって欲しいです。そのためにいろいろな経験を試してみてください。

【匿名】

たくさん卒業生が投稿しているので、昔を懐かしみながら少し書き連ねてみたいと思います。まずは、今の職業に至った過程から。

大学へはただ好きな教科を学んでみたいと思い、将来の職業は大学で考えればよいと考えていました。が、3年になって先輩の就職先を調べて驚きました。教員かコンピューターの2つに一つしかないではありませんか。しばらく悩みながら過ごしていました。当時好きだった女の子が教員を目指していて、おだてることがうまかったので、ついふらふらと教員の道を選んでしまいました。動機は不純です。決して褒められるものではありませんが、これも運命なのでしょう。今は彼女に感謝しています。

さて続いて教員稼業についてですが、とてもやりがいがあって楽しく過ごせています。勿論、生徒と気持ちが通じなかったり、いじめが発覚したりして、眠れない日もありました。それでも私は生徒や同僚に恵まれました。関高での11年間は忘れられない思い出になっています。とりわけ3年目、Y先生に誘われて3年2組の担任となりましたが、ワクワクドキドキの1年間でした。2組の教室の真下が職員室。時々聞こえてくる雄叫びにもすぐに慣れ、窓の下を他の生徒が通っていないことを確かめるようになりました。ガラスが心配でした。担任として教頭先生をはじめ何人か先生に頭を下げて回りましたが、校長先生と一緒に頭を下げることはありませんでした。

2組の連中は、遊んでばかりいたわけではありません。とんでもなく勉強もしました。メリハリのついた生活ができていたのでしょう。私は彼らを誇りに思い、また2組のようなクラスに巡り合えたらいいなと思いながら仕事を続けました。

今後しばらくは、学校行事が縮小され、席が離され、部活が制限されたりすることになります。仲間との交流が難しくなりますが、限られた時間を有効に過ごしてくれることを望みます。

～epilogue～

【おさむ】

君たちの中には将来の確固たる夢が明確でそれに向かって既に邁進している人もいるでしょう。でも、現状のこと、将来のことに対する不安がっぱいな人、悩んでいる人がほとんどではないかと思います。

それでいいんです。

これからも、いいことだけでなく、悪いこと、楽しいこと、苦しいこと、嬉しいこと、口惜しいこと沢山あると思います。でも並べて考えれば人生はチャラだと思っています。チャラだと思えばきっと気が楽になれます。君達にはまだたくさん時間があります。

ですから、今しかできないこと、今こそやるべきことをやって下さい。笑って、泣いて、悩んで、苦しんで、そして我々と同じようにかげがえのない仲間とかがえのない時間を過ごして、そして輝く未来へと羽ばたいてください。そんな君たちと語らえる日が来ることを願っています。



36期3年2組有志は心から君たちにエールを送ります。

